

こんなところ、  
来とうなかった？

新潟日報社が、8月1日(木)～11月10日(日)に集中的に紙面企画やイベント開催などで南魚沼、十日町、魚沼、津南、湯沢の3市2町の魅力や地域課題を多彩に発信してくれています。春の上越エリアに続く「未来のチカラ」プロジェクトの一環で、誠にありがたいことです。

その中で「雪国の豊潤な大地と清流、伝統と挑戦によって生まれた食文化と酒文化を広くPRするイベント」として、9月22日(日)にJ.R浦佐駅で「米と酒 魚沼の陣」が開催されます。魚沼エリアの日本酒全10蔵の参加はもちろん、新米や各地域の美味満載のイベントとなり、当日のステージには、表題のせりふや「子ども店長」で一世を風靡した加藤清史郎さんが特別出演。大河ドラマ「天地人」で直江兼続公の幼少期、与六役の名演技から10年、好青年に成長した彼を一目見たいと思う人も多いことでしょう。私も若き兼続公を迎えるような気持ちで心待ちにしています。

さらに幸運なのは、当市と魚沼市が共同で同駅に建設中の「観光交流拠点(名称 M.Y.U)」の完成記念式典を同日に開催できることです。この地域の将来を担う大きな一歩となればと思っています。

9月15日(日)から始まる「国民文化祭・にいがた2019、全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」やJ.R東日本の観光施策「新潟県・庄内エリアアゲイスティネーションキャンペーン(日本海美食旅)」にも期間が重なることから、大きな発信力、誘客力になることを心から期待します。

10月22日(火・祝)には、南魚沼市民会館で新潟日報社主催の「提言フォーラム」も、3市2町の住民が考えた未来への提言が交わされるそうです。どんな未来像が語られるのか。前述の国民文化祭では、市報6月1日号の「むけーげー」でもお知らせした林修さんの講演会や特別番組など、当市も多くの企画に取り組みます。地域をさまざまな角度から考える、かつてない秋になりそうです。みんなが来たくなくなる、帰っても来たくなくなる「こんなところ」南魚沼に！

シリーズ  
第77回

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～The beauties of my country～



ブルンジ共和国 セリデ ブドロムニエ さん

私の国はこんなところ

ブルンジは、人びとの温かいおもてなしや食べ物、衣類、美しいビーチなど、外国人の訪問客の間で評判が高い国です。ビーチは中心街に位置し、そのアクセスの良さは観光客や国民にも人気です。

また、常連の訪問客のほとんどは、魚を買い求めにやってきます。手つかずの自然があるブルンジでは、滝や温泉なども人気の観光スポットです。

ほかにも、おいしい料理がたくさんあることや果物、コーヒー、紅茶などの農産物も有名です。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼では、とても喜びに満ちた経験をしています。いつも助けてくれようとする人たちの優しさや、静かでシンプルな生活がもたらす穏やかな日常があることも、うれしく思っています。山々もとてもきれいです。

私がこれまでに、母国で見たことのないような魚を見つけることが、いつも楽しみです。



ブルンジ共和国

公用語	ルンディ語、フランス語
首都	ギテガ
面積	27,830km <sup>2</sup> (147位)
人口	11,844,520人(76位)
GDP(PPP)	57.5億ドル (167位)
通貨	ブルンジ・フラン(BIF)

※ GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です